

中野なす

昭和54年の「中野なす生産組合」の設立に始まり、約40年の長きにわたり伝統的にナスが栽培されてきました。

平成16年には生産組合としてエコファーマー認証を取得し、人と環境にやさしい栽培に取り組んでいます。また、少しでも良いものを食べてもらいたいという思いで各生産者が厳選したナスが出荷されています。



1 生産概況

①生産地

大野市の中野地区で生産されています。

②栽培の主な特徴

- ・4～5月に定植し、6月中旬から11月上旬にかけて収穫しています。
- ・中野地区の土壌は、「黒ボク土」で作土が深く、土が肥えているという特徴があり、ナスの栽培に適しています。昔から、「中野地区で栽培されたナスはツヤが良い」と有名だったと言われています。
- ・さらに、通常のナスと違い、果実を小ぶりの状態で収穫するため、品質や食味が高くなります。

